

パートナー（当社が支援する活動地域）	2020 年度計画	2020 年度結果
世界の子どもにワクチンを日本委員会 (ブータン)	DPT（ジフテリア/百日咳/破傷風）ワクチン 50,000 人分、B 型肝炎ワクチン 8,000 人分、保冷库 5 台を提供 KPI:ワクチンと保冷库の供給数	・DPT ワクチン：50,000 人分を提供しました。 (2 歳児のワクチン接種不足分を 100%解消) ・B 型肝炎ワクチン：8,000 人分を提供しました。 (出生 24 時間以内の乳児のワクチン接種不足分を 100%解消) ・ワクチン保冷库を 5 台提供し、現在も使用されています。
ジャパンハート (カンボジア)	新設した CBC 測定器^{※1}で検査の必要なすべての患者さんに正確で質の高い検査を実施 デング熱の患者さんについては、タイムリーな治療を行うことで昨年に引き続き、ジャパンハートこども医療センターにおけるデング熱の死者数を 0 にします。 ※1 自動血球分析装置または自動血球計数装置のことで血液中の赤血球、白血球、血小板などを測定する装置 KPI：全デング熱患者さんのうち血液検査結果が迅速に治療に反映された患者さんの割合	CBC 測定器で検査の必要なすべての患者さんに正確で質の高い検査を実施することができました。 ・ジャパンハートこども医療センターのデング熱の患者さんにタイムリーな治療を行いました。院内におけるデング熱の死者数は 0 人で、KPI の達成率は 100%です。 (2021 年 3 月 31 日時点)
	医療者を目指す学生教育支援 2018 年度から支援するカンボジア人看護学生に対する支援継続	3 年生の 1 学期を修了しました。 ・オンライン中心の授業に出席 ・新型コロナウイルスの感染対策のため学校の病院実習は中止しているためジャパンハートこども医療センターにて学習しています。

パートナー（当社が支援する活動地域）	2020 年度計画	2020 年度結果
ジャパンハート （カンボジア）	デング熱予防 毎年流行するデング熱を予防するために、ジャパンハートこども医療センターのある地域の住民に対し啓発活動を実施（特に子供のいる家庭。2019 年カンボジア国内のデング熱による死亡者はすべて子供であった。） ・デング熱の流行時期(2020 年 10 月)までの間にジャパンハートこども医療センターからの啓発資材配布と SNS を通してデング熱予防や早期診断の啓発情報を発信し流行を抑制 KPI：啓発資材を受け取った人数(目標：4,000 人)、SNS での啓発記事の閲覧数(目標：20,000 人) デング熱等の感染症は温暖化に伴い増加と言われており、当社の気候変動に対する考えからもこの活動を支持しています。	2020 年 6 月～2021 年 1 月の期間に蚊にさされないための予防とデング熱の典型的な症状と早期受診についての啓発活動を行いました。 ・デング熱についてジャパンハートこども医療センターと巡回診療先のヘルスセンターとその近郊で啓発資材（チラシ）を配布し、受け取った人数が 4,000 人となりました。 ・Facebook を利用し、デング熱の啓発メッセージを 6 回にわたり発信し、啓発記事の閲覧数は 22,708 人となりました。
Future Code （バングラデシュ）	新設病院への新型コロナウイルス検出用の PCR 検査機器もしくは X 線撮影装置を寄贈 KPI：PCR 検査機器の場合、1 日の PCR 検査数を 50 件行い、そのうちの最低 10%は貧困層を対象とする 新型コロナウイルス感染症の影響で国の規制が厳しく、新設病院建設が予定より遅れています。規制が解除された後、新設病院の開設に合わせた PCR 検査機器の寄贈を予定しています。 孤児院での健康診断、孤児院及び小中学校での衛生教育を実施 KPI：衛生教育への参加者数 50 人(実施回数は年最低 1 回)	新型コロナウイルス感染症の影響で国の規制が厳しく、新設病院建設が予定より遅れています。規制が解除された後、新設病院の開設に合わせた PCR 検査機器の寄贈を予定しています。 ・2020 年 12 月に孤児院にて 70 名の子供たちに正しい手洗いについての衛生教育を実施 ・2021 年 1 月に孤児院にて 46 名の子供たちに健康診断および衛生の改善指導を実施 ・2021 年 3 月に孤児院にて 31 名の子供たちに健康診断および衛生の改善指導を実施

パートナー（当社が支援する活動地域）	2020 年度計画	2020 年度結果
ピープルズ・ホープ・ジャパン （ミャンマー）	ネピドー特別区レウエイ郡の、全ての助産師（83 人）及び補助助産師（55 人）を対象にスキル・モニタリングと研修を実施 KPI：・アセスメントシートを用いたスキル・モニタリングを 1 回実施 ・研修を 1 回実施（保健当局との連携による 3～5 日間の研修プログラム） なお、上記及び同 NPO が進めるその他の施策（妊婦の知識の向上と健康行動の改善、危険兆候の認識と迅速な受療行動、住民と保健施設をつなげるボランティアの育成と適正配置）との相乗作用により、母と子が適切な保健サービス（妊婦健診、医療者による分娩介助、施設分娩、産後健診）を利用できるようになることを目指します。	助産師及び補助助産師へのスキル・モニタリング 全ての助産師（80 名）及び補助助産師（41 名）を対象にスキル・モニタリングを実施しました。スキル・モニタリングでは保健局や各地域保健センタースタッフが講師となりアセスメントシートに基づいて妊産婦検診や出産介助、新生児ケアにおける助産師一人ひとりの技術を確認しました。その結果、助産師は出産介助、補助助産師は妊産婦検診に関する知識と技術の向上の取り組みを強化する必要があることが確認されました。 助産師及び補助助産師への研修 2021 年 2 月及び 3 月に実施予定でしたが、2021 年 2 月以降のミャンマーの国内情勢の急変により研修の実施は見合わせています。現地スタッフ及び事業関係者の安全を最優先にし、環境が整い次第、2021 年度中に実施予定です。 *産休等に入られた方もおられ、当初計画していた人数から変更しております。